

令和7年3月11日
摂津市立味舌小学校
校長 奥野 友紀

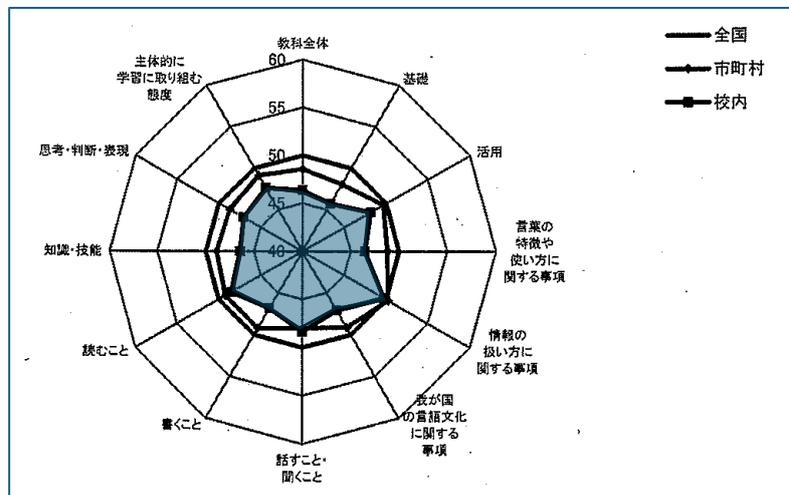
令和6年度摂津市学力定着度調査の結果から

1. 学校全体の結果概要

学年・教科での差はありますが、全教科（国語・算数・理科）が全国平均と大きく変わることなく、おおむね良好な状況です。

2. 5年生の結果分析

≪国語≫



【成果】

- ・話し合いの内容を聞き取る力について、目標値を上回りました(1~18 割合↑)。
- ・報告文を書く問題において、目標値を上回りました(5.6~21.4 割合↑)。

【成果の要因】

- ・国語に限らず、授業の中で対話を大切にされた授業展開授業展開を行ってきたことで、話し合いのスキルが向上したと考えられます。
- ・自分の考えを書くなど、言語活動に積極的に取り組んだ成果が出ていると思われれます。

【課題】

- ・4年生の漢字の書き取りに課題があります。
- ・物語の登場人物の心情を捉えることが苦手であることが伺えます。
- ・条件作文を書くことに課題があり、無回答の児童が多くなりました。

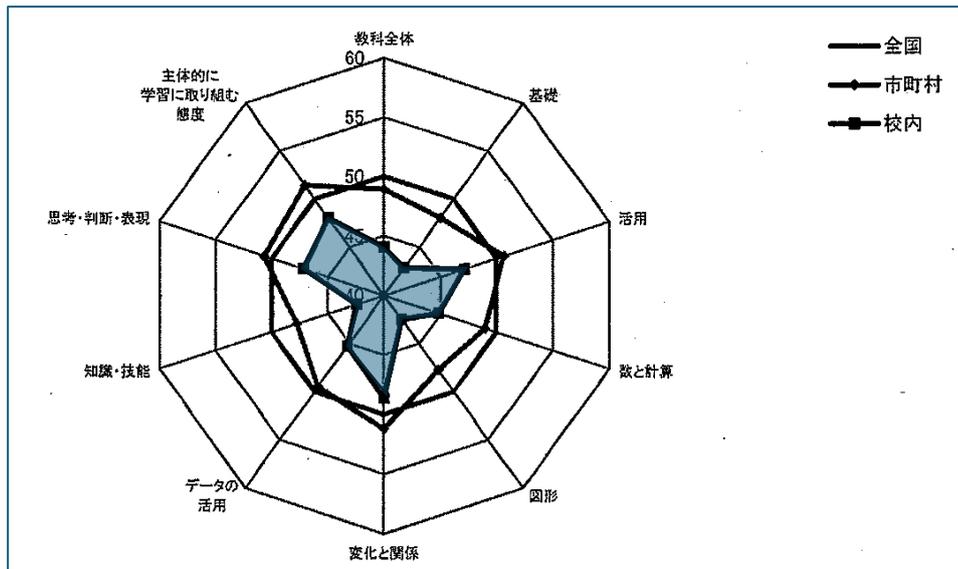
【課題の要因】

- ・普段から既習の漢字を使う習慣づけが不十分でした。
- ・語彙力が低さから、問われている内容の意味を理解することに課題があります。

【今後の取組み】

- ・漢字相撲など、イベントも取り入れながら漢字の習熟に取り組んでいきます。
- ・朝学習（マシコレ）で条件付き作文に取り組んでいますが、日々の授業のふりかえりの中でもキーワードを使った文章を書くなど、条件付きの文章を書く活動を取り入れていきます。

《算数》



【成果】

- ・単位量当たりの大きさを使って、どちらが安いかを説明する問題に関しては、正答率が目標値を上回りました。

【成果の要因】

- ・割合の学習の中で、図を活用して論理的に解く活動をていねいに進めてきた成果が出たと考えられます。

【課題】

- 基礎・基本の定着に課題がありました。
- ・分数・小数の計算(12.8~20.9 ポイ↓)
 - ・体積を求める問題(30.3~44.7 ポイ↓)
 - ・平均を求める問題(15.5~21.6 ポイ↓)

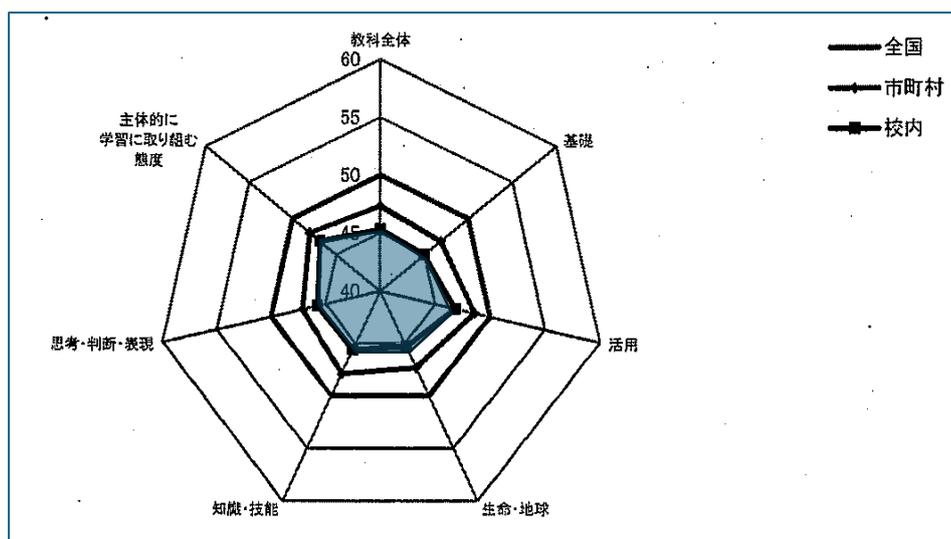
【課題の要因】

- ・全学年までの学習も含め、学習の積み上げが確かなものになっていないと考えられます。
- ・教員の欠員により、年度当初から分割など個に応じたきめ細やかな授業の展開をすることが難しかったことも影響していると思われます。

【今後の取組み】

- ・宿題や朝学習などで遡り学習に取り組むことで、基礎・基本に当たる既習事項の定着を図ります。
- ・現在実施している“習熟度別”による少人数指導によって、落ち着いた学習環境のもと、分からない児童に寄り添った授業展開を進めていきます。

《理科》



【成果】

- ・ 用具の基本的な使い方を理解できています。
- ・ 「雲と天気の変化」「メダカのたんじょう」の内容は概ね理解できています。

【成果の要因】

- ・ 実験は小グループで行い、全員が実際に用具に触れる機会を大切にできたことが成果として出ていると考えられます。
- ・ 天気や生き物の内容は、自分の生活に身近な内容であり、理解が深まったと思われます。

【課題】

- ・ 内容は理解していても、理科用語の意味を理解して記述できていない様子が伺えます。
- ・ 特に活用問題で、学習した内容とどう繋がり、何を問われているのかを理解できていないようです。

【課題の要因】

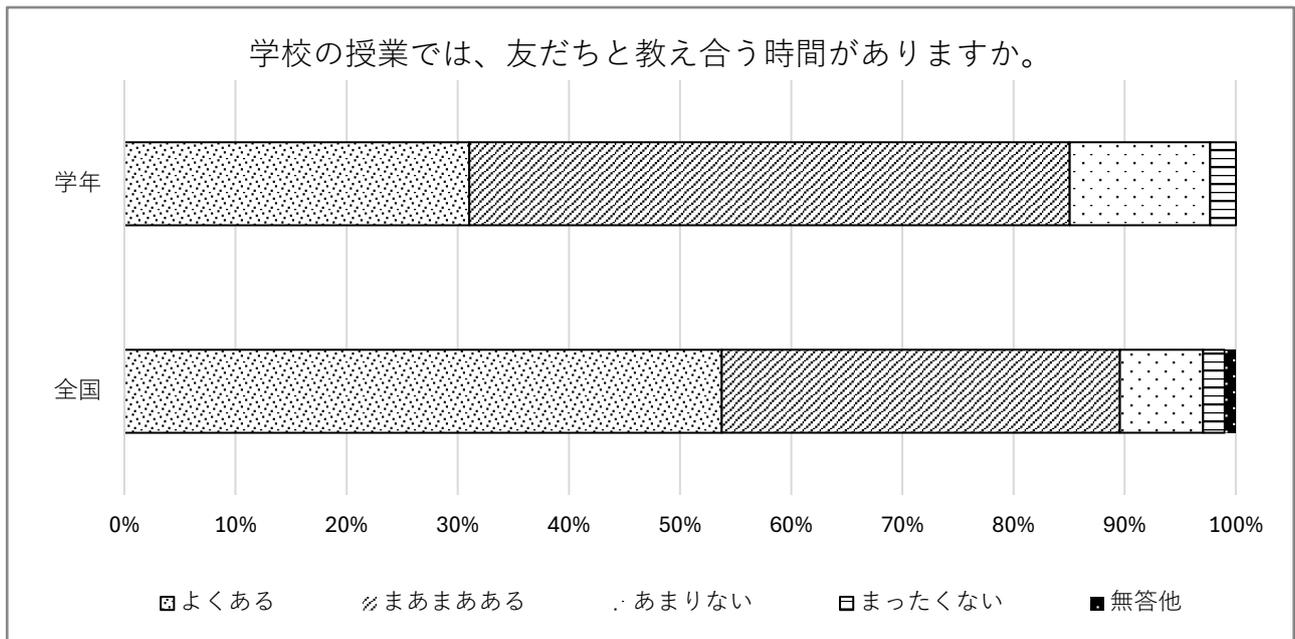
- ・ 考察の際、必要な用語を使って考えを書く指導や、学習したことが、自分の生活にどう繋がるかを考える機会が、十分ではなかったと考えます。

【今後の取組み】

- ・ 考察の際に、理科用語をキーワードとして提示して、自分の考えを書くようにします。
- ・ 活用問題や取り組む機会を設けていきます。

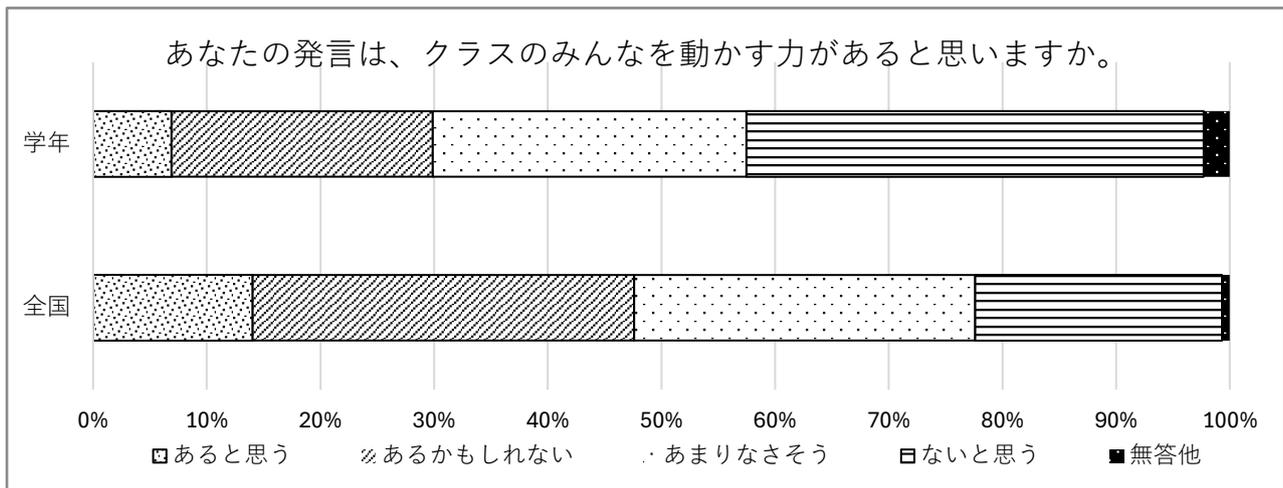
《i-check》

* 肯定的回答が多かった項目



全国に比べると低いです、肯定的回答率は85%と高い数値です。学級の中だけでなく、学年全体で活動することも多く、お互いに学び合う仕掛けづくりを行ってきた成果が出ていると考えます。また、学び方や活動方法について、自分たちの意思を尊重するようにしてきたことも、友達と協力するという風土を生んだのではないかと考えます。

* 改善が必要であると思われる項目



自分にあまり自信がもてない児童が多いです。ルールを守れなかったり、否定的な発言があったりした際に、正しい発言ができる、安全・安心な雰囲気をつくっていくことが必要だと考えます。